

### 道路が広がります

既に多くの保護者の方々をご存知でしょうが、今、北小周辺では道路を広げるための大規模な工事が行われています。学校を南に進み旧敷島町役場辺りは歩道が完備された広く立派な道路が整備されています。ところが、少し北側の飛梅(お寿司屋さん)辺りから道路が急に狭くなってしまいます。大型車がすれ違い出来る広い規格の道路を北に延ばそう、ということで北小周辺で道路工事が行われています。関係者と話し合う機会がありましたので、道路工事の見通しについてお知らせします。

※県中北建設事務所担当者と工事を請け負っている高山建設現場責任者の話

#### (1) 道路工事の見通し

私(校長)も教頭も今年度赴任しましたから、それ以前のことは分かりません。そのため皆様にお伝えできる情報は限られていますが、次のような説明がありました。

- ・新道路建設は4期に分けて工を進める。
- ・現在の県道敷島・竜王線に沿っての道路拡張も考えたが、用地買収等の費用を考え、一部迂回による新道路建設となった。(県の事業です)
- ・新道路は一部迂回して敷島・竜王線と合流する。(周囲の状況から学校西の信号機辺りで合流かと思います。私の推測ですが)

#### (2) 今年度(平成21年度)の工事

今年度の工事は北小駐車場南側までです。来年度以降の工事によっては駐車場が分断され狭くなることも考えられます。現在、北小駐車場はスクールバスの運行以外に、なかよし児童館に来館する方々の駐車場、授業参観など学校行事に来校する保護者の方々の駐車場として利用されています。特に本校は学区が広いので、来校するには車は不可欠です。そのような点からも関係各位に働きかけ、今以上に使い勝手が良く広い駐車場が確保できるようお願いしていきたい、と考えています。

#### 3 通学児童の安全対策

現在、子どもたちへの直接の影響では、天目の信号を渡る班(登校班としては上町北の3つの班)の通学路が工事に重なっています。6月3日に工事関係者から事前の話がありましたので、6月15日より通学路を一部変更しています。また、住まいの関係から工事現場をどうしても横切らなければならない児童については、工事関係者の配慮で保安員を配置し、児童の安全を確保しています。

近所の方々には騒音等で迷惑を感じているかと思いますが、この道路が完成すると北小周辺は歩道の整備された広い道路になります。今以上に安全で住みやすくなると思いますのでご協力をお願いします。



## お子さんと目をあわせる時間ありますか

7月7日(火)午後7時30分から敷島総合文化会館で夏の青少年健全育成敷島地区民大会が行われました。夜の会議は、一度家に帰ってから出かけるのが苦手な私にとって辛いものです。しかし、敷島北小校長という立場もあり参加しました。勿論、「カウンセラーとして見えてくるもの」という題名と日本カウンセリング協会認定カウンセラーの川辺修作先生のお話も魅力でした。

川辺先生のお話の中で、いくつか保護者の皆さんのお役に立ちそうな内容がありましたのでお知らせします。ただ、1時間以上の講演内容を紙面の都合もあり短くまとめましたので、実際の講演内容と多少違う点があることをご了承下さい。

### (1) 現在の青少年が抱える諸問題

自分で自分の心、体のコントロールが出来ない。直ぐにキレ、前後の見境もなく行動する。誰でも良かった、というような短絡的な行動で殺人を犯す。

### (2) その原因はどこにあるのか

成長段階で、必要な要素(心の栄養素)をしっかりと受け取ってこなかった。

### (3) 心理学者エリクソンの仮説(発達段階説)

①乳幼児期 0歳～3歳	対立する要素	信頼と不信
②幼児前期 3歳～4歳	〃	自律性と恥・疑惑
③幼児後期 4歳～5歳	〃	自主性と罪悪感
④学童期 6歳から12歳(小学生)	〃	勤勉性と劣等感
⑤思春期 (中学生・高校生)	〃	同一性と同一性拡散
⑥成人期	〃	親密と孤立
⑦壮年期	〃	生産性と自己陶醉
⑧老年期	〃	統合性と絶望

※説明(川辺先生のお話を元に補足しながら)エリクソンの仮説は、人の成長に於いて、それぞれの発達段階でどのような要素が大切かを研究したものです。例えば、乳幼児期では周りの人に対する信頼が人格形成に大きく影響します。ですから、この時期に周りの大人との間に信頼関係を築くことが大切です。それが出来たかどうか、その後の生き方に大きな影響を与えます。例えば乳幼児は、大人の目をじっと見る必要があります。周りの大人はその真剣な眼差しにたじろぐ程です。その時、大人もしっかりとその子の目を見てあげることが必要です。でも、今は大人が忙しいので、育児をテレビやビデオに任せている面があります。すると、子どもはテレビの中の登場人物の目を一生懸命見ようとするのですが、映像は見返してくれません。そのため、このような環境で育った子は人に対する信頼感を育(はぐく)むことが出来ません。大人が多忙になり時間的余裕がなくなり、わが子をゆっくり見守ることが出来なくなった結果、青少年の非行をはじめとする様々な問題が起きているのです。

### (4) 学童期・思春期に表れた問題行動の是正の仕方

※講演が終わり、参加者から次のような質問がありました。

エリクソンの説だと、人がその成長段階に必要な心の栄養(信頼とか自律など)を取り入れることが出来ないと、その後、様々な問題が表れて来る、といわれます。でも、学童期の子が乳幼児期に戻り人生をやり直すことは出来ません。学童期、思春期に表れた問題行動をどうやって是正したらよいのですか。

○それに対する川辺先生の回答は、次のようなものでした。

人を人として成り立たせる基本は、人との信頼感です。ですから、その子を取り巻く人間環境の中から信頼できる人を見つけます。(この人のことを重要な鍵を握る人という意味でキーパーソンと名付けます)キーパーソンと会話したり、一緒に生活する中で、人間って素晴らしいな、生きるって(辛いこともあるけど)楽しいことなんだ、という気持を少しずつ育てていくことです。